登山月報

第52回全日本登山体育大会・茨城大会報告… 1
第2回 鈴鹿山系連絡協議会開催 …… 3
全国「山の日」制定協議会発足 …… 5
第4回 日本山岳遺産サミットが開催 …… 6
第61回 Mountain World …… 7
風の谷のフンザから …… 8
－2013夏、パキスタン、登頂と敗退－
2013 UAAA総会報告 …… 10
平成25年度全国参与会報告 …… 12
JMA、寄贈図書、編集後記 …… 13

5億年の大地を歩いて体感しよう
＝第52回全日本登山体育大会・茨城大会報告＝

第52回全日本登山体育大会・茨城大会は、北は北海道、南は九州・鹿児島県の31都道府県から157名の岳人が集い11月8日～10日に茨城県内の4市1町の山と沢とを会場にして開催された。

開会式、記念講演、閉会式及び懇親会は水戸市内のホテルにて行い、記念講演終了後、直ちに登山口の宿泊施設へ移動して翌日の登山活動に備えた。

登山コースと会場地は①筑波山(つくば市)②奥久慈男体山・袋田の滝(大子町)③竜神峡(常陸太田市)④神峰山(日立市)⑤花園・七つ滝(北茨城市)の4つの山と1つの渓流遡行であった。

心配していた天候は時たま薄日が射すものの曇り空であり、まずまずの登山日和であった。行動においては怪我やトラブルもなく元気一杯の姿で閉式場である水戸市へ戻った。閉会式は、午後7時から始められ「講評」「会長挨拶」「感謝状の贈呈」「茨城から徳島への聖杖引継ぎ」「徳島大会への案内」がなされた。引き続き懇親会を行い午後9時30分に全ての行事を終え散会した。今後への課題を残しつつ終えた茨城大会ではあったが無事終えたことに胸をなで下ろすと共に関係者の方々のご尽力の賜物と感謝しています。

各行事の大要は以下の通りである。

【開会式】

主催者を代表して挨拶に立った神﨑忠男会長から「全日本登山体育大会の生い立ち」「(公社)日本山岳協会(以下日山協)として本大会へ期待すること」として、登山界の発展、普及と振興への思いを語られた。この中で日山協の理念と言うか目標は、「日本登山界のリーダーとして正しい登山環境、健全な登山環境を作り、社会に親しまれる登山界とならないといけない。文部科学省の統計によれば800～1000万人といわれている登山愛好家の殆ど(99％)が未組織登山者であり、主役はこれらの登山を愛する一人ひとりであることを認識しておかなければならない。日山協は、正しい登山環境、健全な登山環境を作る責任・使命・義務を果たす中で登山環境をつくる場として全日本登山体育大会が適切である。」と公益社団法人格を得て今後の活動の方向性を語られた。茨城県山岳連盟二階堂章信会長から「藪山ばかりの茨城県に多くの岳人を迎え第52回全日本登山体育大会・茨城大会を開催することができ感謝の気持ちでいっぱいです。標高こそ低い山ばかりですが日本最古の地層やその後の古い日本の姿を茨城県北ジオパーク推進協議会の方々に説明・案内していただきます。ようやく紅葉が始まったこの茨城の山々に、全国から岳人が集まり親睦を深め、友情の

輪を広げ、意義深い思い出に残る大会となることを祈念している」旨の挨拶があった。橋本昌茨城県知事(教育長が代理)、高橋靖水戸市長(教育長が代理)が出席して「人気度ランキングでは全国最下位である」こと、「茨城県は農業県であり、北海道に次ぐ生産高である」ことや茨城の特徴及び地元のセールスポイントの紹介を含む挨拶を頂いた。

特別表彰が執り行われ、神﨑忠男会長から「平成25年度永年参与感謝状」が13名に、「平成25年度全日本登山体育大会10回参加表彰」が11名に贈呈された。

宣誓は、群馬県沼田山岳会ハイキング部石坂岩男さん、下荒磯しげ子さんのお二人による「常陸の国の山を楽しみ最後まで歩く」と力強い宣誓がなされた。

【記念講演】演題は「茨城県内山地の成立」

講師は茨城大学名誉教授田切美智雄氏

記念講演の演題は、今回の登山コースの多くが茨城県北部に位置し、この茨城県北地域は日本最古の５億年の大地であることを講師にお招きした田切美智雄氏が発見し「茨城県北ジオパーク」として登録されたことに由来しています。今回登る山々との地層との関連を平易に説明していただきました。講演に加え、登山口や行動のなかにおいても、５億年のカンブリア紀層の大地に立ち、太古から今日に至る地層や地形等についての説明を受けました。講演に加え現地で露頭等を前にして説明を受け「５億年の大地を歩いて体感しよう」が実践できたのではないでしょうか。

また、大会のテーマは「5億年の大地を歩いて体感しよう」としました。更に、この講演を聴講したことで、これからの登山において、動・植物のみならず、山地の形成や地層といった大地との関わり合いに関心を抱く切っ掛けとなることを願っています。なお、講演会は県民公開講座と位置づけ一般の方にご来場していただきたく案内をしました。

【登山行動】

11月に入ってから降雨も少なく、登山道もしっかり踏まれていたこともあって、行動は各コースともに順調で、以下に示した計画時間内に行動を終えることが出来た。登山会場への往復も案じられていた交通渋滞もなくスムースな移動ができた。

Aコース：筑波山（877m つくば市）

距離6.2km　所要時間６時間45分

Bコース：奥久慈男体山（654m）袋田の滝（大子町）

距離7.0km　所要時間６時間20分

Cコース：竜神峡（475m 常陸太田市）

距離7.4km　所要時間７時間10分

Dコース：神峰山（598m 日立市）

距離10.0km　所要時間６時間00分

Eコース：花園山（703m 北茨城市）

距離5.3km　所要時間４時間30分

【閉会式】

仙石富英常務理事から講評があり、「茨城県山岳連盟が「山、高きが故に尊からず」の精神を先輩から受け継ぎ、実際に４つの山域における５つのコースを登山して、このことを実感した。設定された5つのコースは、歴史的な背景、地域との関わり合いを考えるよい選択であった。また、スタッフマニュアルを作成・共有し、統率のとれた行動に繋がり、スムーズな運営となった。」との評価であった。

神﨑忠男会長挨拶において「多くの女性と“5億年の大地を歩き体験してきました。古来から馬力とは馬の力と書いてきましたが、現在は「ババーの力」と言ったほうが適切ではないだろうか”（爆笑）。今日は女性に元気を貰って歩きました。来年は四国で「自然を大切に」「仲間を大切に」「命と健康を大事しよう」を合言葉に徳島で会いましょう」と四国での再会を期する言葉があった。

感謝状が日山協神﨑忠男会長から茨城県北ジオパーク推進協議会長へ贈呈された。

茨城県山岳連盟から徳島県山岳連盟への聖杖の引継ぎに続き、徳島岳連・原秀樹会長から「第53回全日本登山体育大会・徳島大会の概要説明と多くの岳人の参加の呼びかけがあった。

【懇親会】

親睦を深め、友情の輪を広げ、意義深い思い出に残る大会となることを願い、参加した全ての岳人と各コースのＣＬ及びＳＬを含め開催し盛況の内に終えることが出来た。特に、お開きとなって会場を去る岳人を地域の男性コーラスグループの歌声で送り出し、去る人達が名残りを惜しむかのような佇まいを目の当たりにして、大会を開催して心から好かったなと感じた。

（茨城県山岳連盟理事長　田所洋一）

第２回 鈴鹿山系連絡協議会開催

平成25年11月９日（土）～10日（日）、御在所岳の麓にある三重県菰野町において、第２回鈴鹿山系連絡協議会を開催しました。

この協議会は、鈴鹿山系における登山者の増加による遭難、異常気象による登山道の荒廃等、危機的事案が多発してきているため、鈴鹿山系を取り巻く山岳連盟がお互いに情報を共有し、連携を深めると共に、鈴鹿山系における安全登山と自然保護の啓発に務めることを目的として昨年発足、第１回協議会は、滋賀県山岳連盟主管で昨年11月３日（土）～４日（日）に開催しました。構成メンバーは近畿ブロック、東海ブロックの鈴鹿山系当該県及び鈴鹿山系を利用している府県の岳連役員、遭難対策、自然保護の関係者となっています。

第２回の今回は、三重県山岳連盟が担当して開催しました。初日の９日（土）は、午前７時30分から10時までの間、御在所岳付近の登山口６箇所（表登山口・中登山口・裏登山口・武平峠登山口・御在所ロープウェイ駐車場・朝明駐車場）で安全登山啓発活動を行いました。各岳連、四日市西警察署、菰野消防署等が参加して、啓発チラシや安全登山のしおり・リーフレット等の配布を行うと共に、登山者にはアンケートに記入をしていただきました。また、登山届提出をPRして安全登山に対する意識を持ってもらうように努めました。

■登山口アンケート結果

①家族に山へ行くことを伝えているか？			
はい	88.5％	いいえ	11.5％
②登山計画書を持っているか？			
はい	40.0％	いいえ	60.0％
③何県から来られたか？			
愛知県	49.0％	三重県	29.3％
滋賀県	5.2％	岐阜県	4.8％
大阪府	4.0％	静岡県	1.6％
奈良県	1.3％	京都府	0.8％
その他	4.0％		
④山岳会・サークルに所属しているか？			
はい	21.6％	いいえ	78.4％
⑤食べ物・飲み物は持っているか？			
はい	98.9％	いいえ	1.1％
⑥カッパ（雨具）は持っているか？			
はい	87.7％	いいえ	12.3％
⑦懐中電灯・ヘッドランプは持っているか？			
はい	61.1％	いいえ	38.9％
⑧地形図・登山用地図は持っているか？			
はい	68.1％	いいえ	31.9％
⑨携帯電話（無線機）は持っているか？			
はい	96.1％	いいえ	3.9％

（備考）三重県側５ヶ所で実施、回答者数632名（調査時間中の登山者全員ではない）、未記入項目もあり。

午後は、菰野町役場の会議室をお借りして、第２回鈴鹿山系協議会を開催しました。参加岳連及び関係者は次のとおりです。

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、愛知県、岐阜県、三重県の各岳連及び四日市西警察署

会議の冒頭、三重県山岳連盟 水谷会長は「午前中に啓発活動を実施したが、軽い気持ちでの入山者が約30％、危険と思われる入山者が約10％程見受けられた。平成24年度の三重県での遭難者は全国12位、救出率は４位となっており、日頃の活動に感謝したい。」と挨拶。また四日市西警察署 石川地域課長は「これまで本年度の四日市西警察署管内の山岳事故事案は17件発生。内80％が県外からの登山者で、80％が登山届未提出となっている。安全登山推進のため県境を越えた協力をお願いしたい。」と話された。

参加者の自己紹介に続き、第１回鈴鹿山系連絡協議会の報告が、滋賀県山岳連盟 伊藤会長より行われた後、各府県の現状及び活動報告（遭難対策・自然保護）が発表され、今後の活動方針を決めました。

主な内容は次のとおりです。

○滋賀県

遭難対策：遭難対策員会と山岳遭難防止協議会（行政・消防・警察・岳連、岳連が事務局）を組織。救助研修会を夏と冬の２回実施。登山届の雛形を作成。中高年対象の登山教室を開催（県内各地）。

自然保護：自然観察会（２ヶ月に１回実施）。清掃登山の実施。但し、活動参加者数の頭打ちが課題。

○岐阜県

遭難対策：国立登山研修所と県内で初心者向けの一般講習会、素人対象の机上講習会（基礎の基礎）実施。北アルプスの事故が増加（未組織登山者増と自立した登山者の減少）。

自然保護：夜叉ヶ池に絶滅危惧種。コンロ使用に起因する火災発生。各山岳会単位での清掃登山の実施。

○大阪府

遭難対策：事故者数増加。読図・救急・レスキュー研修の実施。「体力不足が事故を招く」登山者の集い実施。

○愛知県

遭難対策：気象遭難等講習会（年４回）。県民登山大会（ルートプランニング）の実施。鈴鹿山系での安全登山アンケート実施（登山道・道標の整備、トイレ整備、情報発信の希望が多い）。鈴鹿山系での事故者に愛知県人が多いが、県行政は危機意識が希薄。

自然保護：自然保護研修（３回）・観察会（２回）を実施。指導員資格取得受験者向けと指導員向けの研修会の開催（１回）。

○京都府

遭難対策：救助隊組織が無く府下の事故発生状況把握ができていない。ナイトハイク、ロープレスキュー、冬季登山訓練実施。

自然保護：府下一斉清掃活動の実施（600名参加・ゴミ1.5t）。自然観察会の実施。「ぐるっと京都トレイル北山30k」を企画。

○兵庫県

遭難対策：岳連内で講習会実施（６回）。セルフレスキュー講習会実施（ハイキング３回・クライマー３回）。機関紙に啓発記事を掲載。ハザードマップの作成と活用。関係機関の間での「組織の壁」がある。警察や消防の苦手部分を補うのが遭対の役割。

自然保護：自然保護散歩の実施（年10回程度）。森の再生活動の実施。

○奈良県

遭難対策：県内山岳関係組織は少なく、規模も小さい。消防隊員と合同で沢登り研修会を実施。警察航空隊と合同で安全パトロールの実施。

○三重県

遭難対策：四日市西警察署管内発生事案の1/5程度に出動。道迷い事案が多い。春先の落ち葉による滑落事故も多発。クライミングジム育ちのクライマーのゲレンデでの事故増加。ＧＰＳ付携帯から県警本部通報は位置特定が比較的正確。消防・警察・行政・岳連とのコミュニケーションを図っている。登山道整備を積極的に実施（他府県よりの参加者も多数参加）。岳連主催の「山登りベーシック塾」を実施（年６回）。

自然保護：指導員数も少なく他府県に比べて進んでいない。清掃登山を岳連及び各山岳会で実施。

○今後の活動方針

1）協議会全体による登山指導

平成26年度啓発活動を各府県でゴールデンウィーク前後に実施し、その時基本項目を統一したアンケートを実施する。

2）遭難事故・対策、自然保護に関する情報網の整備

各府県間の情報連絡はWeb上の掲示板を活用。

3）次回開催予定

平成26年10月25日（土）～26日（日）滋賀県内。担当は滋賀県山岳連盟。関係機関（警察、消防、行政）にも参加を呼びかける。

夕方からは、朝明渓谷の朝明茶屋に場所を移しての懇親会で親交を深めました。

翌10日（日）は座談会を行い、愛知岳連の北村理事長より、９月８日～13日に視察された韓国の登山界の状況報告を受けました。国立公園における入山方法の徹底、登山人口や登山事故、登山道の整備状況、救助隊員への安全教育など、日本とは異なる考え方、取り組みをしており興味ある話を聞くことができました。

また、各岳連・山岳会が直面している「日本登山界の高齢化」の話となり、若い登山人口は増えているにもかかわらず山岳会という団体に入らないのはなぜか。若い人が入会したい山岳会とは、等意見交換しました。その時に出た意見の一部は以下のとおりです。

◇高校から大学、大学から社会人への移行がスムーズにいっていない。

◇同世代同士の活動となっている。

◇個人で楽しむ人が多く組織のために働く人が少ない。

◇学校教育の場で山登りや自然に接する機会がなくなっている。

◇若者が憧れる広告塔的リーダーの存在が大切。

◇若い人が若い人を呼ぶ。◇入口を緩くし制約のない会運営を行う。

◇若者が発言しやすい雰囲気作りが必要。

◇登山以外の行事（登山道整備や清掃登山等）には若者も集まる。

◇未組織登山者（個人加入）の受け皿を作って受け入れる方法もある。例：「山っこ（滋賀）」条件は会費支払い、保険への加入、登山届、下山届けのみ。

◇門戸を広げる対策が大切。

以上、ブロックの域を越えた情報交換の場を持つことができ、遭難対策や自然保護活動にとどまらず、その他の活動でも良い協力関係が築けるものと期待しています。（記　三重県山岳連盟理事長　門山信男）

全国「山の日」制定協議会発足

「山の日」をつくろう！を国民運動に盛り上げていくために、これまで本会など山岳５団体で推進してきた「山の日」制定協議会を発展的に解散して全国「山の日」制定協議会が発足した。

11月11日に東京千代田区の弘済会館で、発起人会が行われ、続いて設立総会が開催された。

発起人会には、呼びかけ人の谷垣禎一議員をはじめ20名の発起人（代理出席２名）が出席。呼びかけ人の谷垣議員が国会での大臣答弁で遅参したため磯野準備事務局長が代理で会議を進行した。会議ではこれまでの運動の経緯説明に続いて、設立趣意書案が読み上げられ、全員一致で承認された。

続いて設立総会に移り、こちらは公開で開催されたため、多くのメディアが傍聴した。

設立総会は、冒頭、谷垣発起人会議長が開会の挨拶をし、そのなかで「山の日」制定の今日的、文化的な意義を述べ、「幅広い国民的運動として展開することが必要だ」と強調した。議事の次第は以下の通り。

１．規約の承認

規約（案）の承認が諮られ、異議なく承認された。

２．会長選出

議長から会長の選出が諮られ、谷垣禎一発起人会議長が推薦され、異議なく承認された。

３．役員選出

議長は新会長として規約に則り、下記の役員委嘱を提案し、異議なく承認された。尚、谷垣会長が法務大臣就任中は、会長代行を置く必要があるため、衛藤副会長を会長代行に推薦し、承認された。

３．事業計画

事業計画（案）は、提案通り、異議なく承認された。

４．収支予算

収支予算（案）は、提案通り、異議なく承認された。

議事終了後の報道関係者との質疑応答の中で、「山の日をいつにするか」について谷垣会長は、日にちの特定は一番重要だが未だ決まっていない。超党派国会議員連盟とも話し合いたいし、幅広いコンセンサスが得られるよう多くの方の意見を吸い上げたい、と述べた。

【役員構成】

会長：谷垣禎一（衆議院議員）
副会長（会長代行）：衛藤征士郎（衆議院議員、超党派「山の日」制定議員連盟会長）
副会長：安藤宏基（日清食品HD代表取締役社長）、尾上昇（日本山岳会前会長）、國島芳明（高山市長）、福田富一（栃木県知事）、藤原忠彦（川上村村長）、松沢哲郎（京大教授・文化功労者）
監事：梶正彦（タタ・コンサルタンシー・サービス・ジャパン相談役）
事務局長：磯野剛太（日本山岳ガイド協会理事長）
顧問：阿部守一（長野県知事）、内田和也（明治海運・代表取締役社長）、漆原良夫（衆議院議員）、岡島成行（日本環境教育ﾌｫｰﾗﾑ理事長）、柿沢未途（衆議院議員）、神崎忠男（日本山岳協会会長）、殻田恵二（衆議院議員）、鈴木克昌（衆議院議員）、成川隆顕（日本山岳会評議員）、藤井孝男（衆議院議員）、船村徹（全国音楽著作権協会名誉会長）、水嶋一雄（日本大学教授）、

〈超党派「山の日」議員連盟の動き〉

超党派国会議員による「山の日」制定議員連盟は、10月30日、第11回総会を開き、「山の日制定の選択肢」について協議した。出席者は112人の加盟議員のうち17名。

この総会で、山の恵みに感謝し、豊かな自然を次の世代へ引き継ぐ機運を高めようと、毎年８月12日を祝日の「山の日」とする祝日法の改正案を決めた。しかし、群馬県選出の議員などから、日航ジャンボ機が御巣鷹山に墜落し、520人が死亡した犠牲者の命日を祝日とすることには違和感を感じる、という異議が出された。このため日にちの特定については、さらに慎重に協議することになった。

そして、11月22日に開催された第13回総会で、８月11日を「山の日」の候補として祝日法改正案を来年の通常国会に提出することを決議した。

（記　尾形好雄）

第４回 日本山岳遺産サミットが開催

山と渓谷社が2010年に設立した日本山岳遺産基金主催の４回目の日本山岳遺産サミットが１０月23日(水)午後７時より、東京東銀座の時事通信ホールで開催されました。

日本山岳遺産基金とは、山岳地でのゴミ拾い、マナーアップの呼びかけ活動や、青少年登山への支援を行うとともに、日本山岳遺産地を認定・発表し上記の目的に沿った活動団体に助成を行っています。日本山岳協会も今年、ジュニア登山教室 in 立山と各都道府県主催の少年少女登山教室へ50万円の助成金を頂いております。

当日はサミット関係者だけでなく一般参加者を募って、250名の会場が満席、会場は活気に満ちていました。

定刻に、山と渓谷社社長で日本山岳遺産基金会長の関本彰大氏の挨拶で開会され、次の通り第１部、第２部と滞りなく進められました。

第１部　日本山岳遺産認定発表

Ⅰ.日本山岳遺産基金の久保田事務局長から今年度の活動報告が行われました。2000人の入山者にマナー向上を呼びかけた「マナー＆クリーンアップ・チャレンジin南アルプス」の報告につづいて、この基金の目的の一つ「次代の育成活動への助成」の例として、田部井淳子さんと山岳遺産基金共催の「東北の高校生を日本一の富士山へ」と日本山岳協会の「ジュニア登山教室in立山」が映像と共に紹介されました。

Ⅱ.今年の日本山岳遺産認定地の４団体が発表され、代表者からのスピーチと映像の紹介がありました。まずは北海道「アポイ岳」で高山植物の保護活動を展開しているアポイ岳ファンクラブの会。ついで宮城県の「金華山」で地元小学生と交流登山と島の修復作業に取りくんでいるNPO法人FIRST ASCENT JAPAN。三つ目は北アルプスの「船窪岳」歴史ある針の木古道維持管理のために７年前に設立された船窪小屋・道しるべの会、小屋を拠点に周辺の登山道整備に取り組んでいる。最後は「大台ケ原大杉谷」で安全登山の啓発や遭難者の救助活動をしている(公社)大杉谷登山センターが報告しました。

スピーチに先立って概要の説明が神谷氏からあったので短時間にも関わらず、各地の活動の様子が良く分かりました。

Ⅲ.最後にアドバイザーリポート。前日本山岳協会会長田中文男氏から、今年は15団体の応募があり、いずれも地域に根付いた地道な活動で選考に苦慮した。これからも底辺を広げて未来へとつなげていって欲しいとの講評がありました。

第２部　特別講演

東北の高校生と日本一の富士山に登って

（講師　田部井淳子氏）

３年前、ＮＨＫの企画で内田アナウンサーと北アルプス立山から穂高まで縦走、登山初体験の内田アナが大感激したことから話し始め、昨年に引き続いて２回目の東北の高校生との富士登山について精力的に話されました。東日本大震災で大変な思いをしている東北の高校生を元気付けるために何が出来るか？　を考えた結果「日本一の富士山に登ることだ」と昨年、HAT-J主催で実施して、高校生に大きな感動を与えられたことを実感し、今年は山岳遺産基金との共催で実施した。初めて登山する高校生も多く、疲労からあきらめそうになりながらも、励ましあって75名が全員登頂し大感激した様子が熱く語られ、今後1000人の高校生を登らせたいのでよろしくと聴衆に協力を呼びかけました。

その他、限られた時間を密度濃く生きたいとの目的として世界各国の最高峰を登ること(既に65カ国終了)、また仲間とシャンソンを習いコンサートをしていることなど元気で明るい口調で話され、大きな拍手を浴びていました。　（記　本木總子）

第61回 Mountain World

辺境に隠れた宝石を求めて

池田常道

英国山岳会（AC）会長ミック・ファウラーは、1987年、31歳のときスパンティーク（7027m）のゴールデン・ピラー（北西壁）を登った。標高差2100mに及ぶこのルートは上半部1100mがとくに急峻で、きわめて困難な岩とミックス壁の登攀が要求され、当時（あるいは現在でさえ）カラコルム最難の登攀と謳われた。

相棒はヴィクター・サンダーズで、1980年にビアフォ氷河のウズン・ブラック（6422m）を試登するなど、ヒマラヤ／カラコルムのビッグウォールですでに経験を積んでいた。彼はそのとき、ラトックⅣ峰（6456m）で起きた山学同志会隊のクレバス転落事故に遭遇し、自力で脱出した大宮求隊長の急報を受けて、クレバス内に残った岡野孝司隊員を救出している。

さて、ファウラーは1993年、インドのセロ・キシュトワール（6220m）をスティーブン・サスタッドと、95年にはネパールのタウツェ（6501m）北東ピラーをパット・リトルジョンと登った。97年にはソンダーズらとガルワールのチャンガバン（6864m）北壁を登るが、6名中2名が頂上に立つだけに終わったうえ、東稜を下降中に1隊員を雪崩事故で失った。97年には再びサスタッドと、アルワ・タワー（6352m）北西壁を登っている。2000年には再びサスタッドと組んで、ユーコンのマウント・ケネディ（4237m）北西壁を陥れた。

徴税官としてフルタイム正業に就くファウラーの遠征登攀は、年に1回の有給休暇4週間の範囲内で行なわれるものだ。1995年に出版された処女作Vertical Pleasureの副題にThe Secret Life of a Tax Manとあるのは、そんな彼の日常と山の両立ぶりを物語っている。のちの話だが、「新聞に大見出しで載るような山へ、なぜ行かないのか」と聞かれたファウラーは、こう答えている。「訪れる人もめったにいないヒマラヤの一角で、いまやっている登攀が答えだ」ちなみに長年の友ポール・ラムズデンも、健康・安全アドバイザーとしてフルタイムの職に就いている。

2002年には中国へ目を向け、ラムズデンと四姑娘山（6250m）北西壁を初登攀、この年のピオレドールに輝いた。2年後には東チベットのカジャチョ（6447m）をクリス・ワッツと、2007年には再びラムズデンと、その隣のモナムチョ（6264m）と二つの尖塔の初登頂をモノにした。次の目標を大米勇（6324m）に定めたものの、チベット情勢の悪化でお預けを食っている。

この間も活動を諦めたわけではなく、2008年にインドのヴァスキ・パルバット（6792m、西壁敗退）、2010年中国・新疆のスラマール（5380m）北壁初登攀、11年西ネパールのゴジュン（6310m）初登頂、12年シヴァ（6142m）北東ピラー初登攀と成果を挙げてきた。ラムズデンとは、四姑娘山以来5回一緒に登っている。

去る10月にはキシュトワール・カイラス（6451m）に初登頂してみせた。セロ・キシュトワールに行ったときからマークしていた山だが、カシミールの政情不安から20年近く待たされた末にチャンスをつかんだのである。6日間にわたるアルパイン・スタイル登攀の相棒を務めたのは、またもラムズデンだった。

つねにいくつもの目標を持っているファウラーだが、よき協力者の存在も欠かせない。アルワ・タワーやヴァスキ・パルバットはハリシュ・カパディアの提供した写真に触発されたものだし、四姑娘山以来一連の中国登山には、中村保氏の写真と情報が大きな役割を果たした。ゴジュンではエド・ダグラスが、ぜひ君に登ってもらいたいと、西壁の写真を送ってきた。

上／頂上に立つファウラー(右) とラムズデン。
下／シヴァ頂上から見たキシュトワール・カイラス。

風の谷のフンザから
―2013夏、パキスタン、登頂と敗退―

2013年夏、ナンガ・パルバットで登山家殺害事件が起きた。パキスタン遠征の出発間際だった私たちは、外務省からも直々に自粛要請（というほど厳しくはなかったけれど、本当に行くのですか？　という連絡）をもらった。協議を重ねるが、やっぱり「行く」という結論だった。カラコルムの山麓に住む、罪無き人たちにも会いたかったし（実際、この事件のせいで今夏のパキスタンへの外国人トレッカーや観光客は激減したと、地元の人々はこぼしていた）、今がダメで未来が大丈夫だなんていう保証も、この国にはない。

フンザの常宿から2004年に登ったゴールデンピーク（7027メートル）を眺めていると、なんと隣室には2009年にともにピオレドールを受賞したスイス人のサイモン・アンタマッテンがいた。しかも、私が2009年に敗退を喫したキンヤン・キッシュ東峰を登ってきたというのだ。もちろん初登。うーん、さすがだ。この日は一緒に乾杯する。

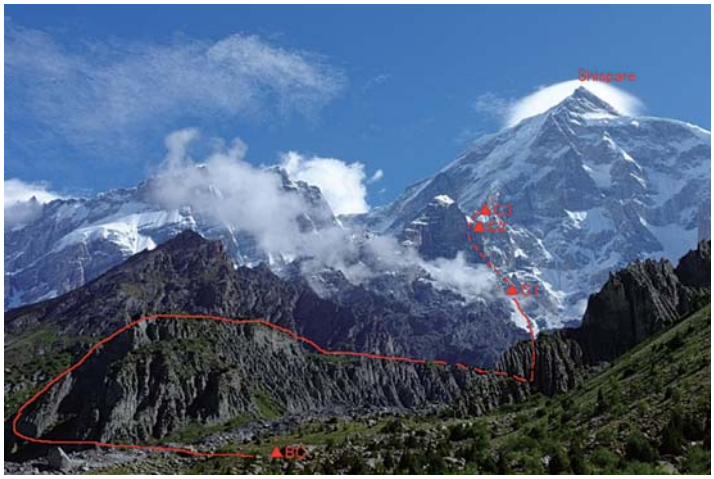
今回の目的は２山。同じようにフンザから眺めの良いディラン（7266メートル）と、フンザの背後に聳えるシスパーレ（7611メートル）。ディランへは対岸のミナピン村からミナピン氷河を越えてアプローチする。北杜夫著『白きたおやかな峰』の山だ。あの高みでいったい何が起きたのだろう？　彼らはどんな景色を見たのだろう？そんなにも雪は深かったのか？氷は硬かったのか？そんな小説のなかでさまざまな想像が膨らむ、あの頂へ行ってきた。小説以外でも頂上直下での敗退や、行方不明という記録が並ぶ。地元のミナピン村の人はディランを「2nd Killer Mountain」だと言った。（「1st Killer Mountain」はナンガ・パルバット）

魔の山ディランは我々をその頂へと導いてはくれたけれど、その西面では心が折れそうになるくらい懸垂氷河地帯のルート・ファンディングに右往左往させられ、クレバスへの墜落の恐怖やセラックの崩壊の恐怖と闘い、そしてさらに心が折れそうになるくらい長い長い西稜の登高と、最後にはやはり氷壁が出てきた。最後の岩と氷と雪の壁を登ると、素晴らしい景色が待っていた。はるか眼下に、巨大な氷河のうねりが見える。カラコルムの山々は、どこまでも峰を連ねていたけれど、次に目指すシスパーレは雲の帯にその姿を隠していた。

シスパーレBCはハサナバード氷河奥の緑の台地に設営した。3500メートルと標高は低く、野バラとビャクシンに囲まれた素敵な庭だったけれど、シスパーレの頂まで4000メートルも標高差がある。そしてその頂はやはりいつも雲のベールに身を包み、美しい姿はなかなか見せてくれなかった。雨が一週間つづき、その後も雲が切れては湧きくる。壁の状態を偵察しにウロウロしても、結局のところいちばん確認したい上部セラックの詳細は分からなかった。3段に重なるセラックを回避して私たちのラインを引く――出来るか出来ないかは登ってみなければ分からない。天気だって一週間も晴天がつづくことなんて期待できないのだから、どこかのタイミングでGo Upするしかない。

私たちが選んだラインは、一枚の壁というよりは幾つも連なる岩峰群を越えていくというものだ。これがセラックの崩壊というリスクを最も回避できるラインだった。標高差4000メートルとなると上と下とでは相当な気温差だ。下部では気温が高く、落石がひっきりなしに彼方此方から襲ってくる。小さな落石が腿にヒットした。痛がっている場合ではない、ロキソニンを飲んで行動をつづける。こんな危険なところに長居は無用だ。

ディラン・ルート図



シスパーレ・ルート図

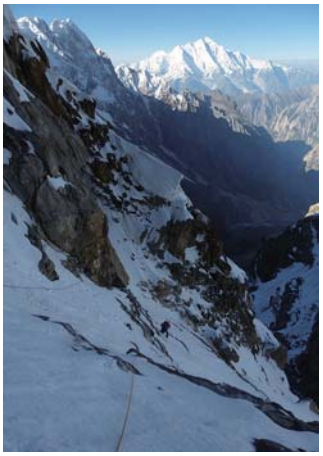
セラックの脅威_これが幾つも出てくる

氷河上に落ちていた石に記録を残しミナピン村に並べる

シスパーレ南西壁

フンザで遭遇したキンヤンキッシュ東峰隊と
～何故か全員赤いシャツを着ているな～

白きたおやかな峰


シスパーレ南西壁登攀
（背後はラカポシ）

中間部岩壁でのミックス・クライミングは、ようやく「楽しい！」パートがやってきた感じでワクワクした。岩、氷、岩、雪壁……でも、その先に何が待ち受けているのだろう？

「ヤバイな」 シスパーレの壁はすんなりと私たちを受け入れてくれるものではなかった。

登っては下り、さらに登ってまた下らされ、雪庇のリッジの次は一枚岩のトラバース。そして登るにつれて目の当たりにしたのは、頭上に迫りくるセラックだった。

こんなに想いが熱いのに、どこかに可能性はないのだろうか？しかし、セラックは無情にもそこに立ちはだかっていた。セラック崩壊の脅威に対するリスクは、絶対にゼロにはならなかった。笑顔で帰ること、これが第一命題だ。心では泣きながらも、無傷で帰れることに感謝しなければいけないのだ。未だかつて誰も触れたことのなかったシスパーレ南西壁に触れられたことにだけでも、感謝しなければ。

（記：谷口けい）

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ケ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)
神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」 TEL:042-687-2882
理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

2013 UAAA総会報告

主　管　ＡＣＰ(Alpine Club of Pakistan)パキスタン山岳会
出席者　神﨑会長、小野寺（記録）
日　程　2013年９月28日～10月２日
28日夜にイスラマバード着、多くの参加国が同じフライトであった。会長のManzoor氏はじめ数人のスタッフがイミグレーションを越えて出迎えてくれた。前後をパトカーに護衛されて車にてホテル着。
場　所　イスラマバード市内、Hotel Margala

1.事前処理

前年度の活動報告ということで、提出依頼があり、環境・自然保護分野ということで担当副会長国のネパールに提出しておいた。本来別の副会長国にYouthとExpeditionについて提出する必要があるのだが、依頼はなかった。

それとは別にJMAとしての過去半年～１年間の活動報告はＰＰＴで別途用意した。

2.参加国

日本（ＪＭＡ、労山）の他、会長国の韓国（ＫＡＦ）、副会長国の中国（ＣＭＡ）、ネパール（ＮＭＡ）、イラン（ＩＲＭＳＦ）、そしてキルギスタン（ＫＡＣ）、台湾（ＣＴＭＡ，ＣＴＡＡ）、そして主管国のパキスタン（ＡＣＰ）が出席。香港、モンゴル、韓国ＣＡＣは欠席であった。また、ＵＩＡＡ会長のFrits Vrijlandtが招待ということで出席した。次にＵＩＡＡ理事会・総会を控えながらも殆どのイベントに参加し、夜中に到着、夜中に出発と強行日程のようであったが、無事に任をこなした。

3.パキスタンについて

海外登山を行う者は言うに及ばずネパール、中国と共にヒマラヤを有する登山大国であることは誰もが知っていることである。しかし本年６月ナンガ・パルバットのＢＣで事件／悲劇が起こり、日本でも外務省が渡航については厳重注意を発するなど本会議開催自体も一時危ぶまれた。Mazoor会長もこのような事件を起こし申し訳ないと一度謝罪した。事件（一度だけaccidentと言ったが、後はincidentが使用された）はカラコルム・ハイウェイの近く（Giligit/Baltistan付近）で起こったが、ＡＣＰは政府と共に如何に安全対策に貢献したかを強調していた。このような状況であり、着いた翌日の参加者懇親ハイキングにも自動小銃を持った警官がつきっきりで我々を護衛した。

4.議　事

実際の進行は足掛け３日間に渡り、informal会議や荘厳なる開会式セレモニーなどを挟みセッションを区切って行われ、討議が重なる部分もあったりしたが、文章の都合上１つの流れとして記述する。

4-1.セレモニーとしての開会式

大臣の出席、コーランの後、ＵＩＡＡ会長、ＵＡＡＡ会長、ＡＣＰ会長等が登壇し、夫々の挨拶を行った。大臣もギルギット地方は貧困な場所であるとし、安全面でのレビューを行っているとのことであった。

4-2.開　会

ヒマラヤ等で亡くなられた方の為に全員で黙とうした。

⑴ＡＣＰ会長挨拶

我々は山に登らなくてはならない。テロリストには強い決意で立ち向かう。

⑵ＵＡＡＡ会長挨拶

15年前ＧＩに来たことを思い出す。ＡＣＰ会長有難う、ＵＩＡＡ会長、忙しいのによく来てくれました。感謝します。ＪＭＡ神﨑さん、2014年の事引き受けてくれて有難う、我々はよい関係です。(Christine)Paeさん有難う。

⑶ＵＩＡＡ会長挨拶

ＵＩＡＡとＵＡＡＡはファミリーです。よい関係を築いて行きたい。

⑷定足数、前回の議事録確認

参加者の自己紹介、前回の議事録、昼食時に見て置いてほしい。

4-3. 加盟団体の活動報告

ＪＭＡ、労山、イランはＰＰＴにて、ＣＭＡとＣＡＣ、香港（共に欠席）は印刷物にて、発表する。ＪＭＡは来年開催予定の広島もＰＲしておいた。他の主な内容と

してネパールは山岳博物館の充実、エベレスト、ダウラギリの清掃キャンペーン、今年は1333隊6500人の登山者に対して許可が出た。ＫＡＣはレーニンピーク登頂75年では26ヵ国、560人が訪れた、神﨑さんの示唆による誰でも参加の登山コースは大人気だった。イランは国際クライミング大会実施（ビデオあり）、トルコにおけるケービングなど。ＡＣＰは政府と協力して安全対策に努める。他に主だった報告なし。

4-4.ネパール山岳博物館

設立は日本がかなり援助、今年もＪＩＣＡが120万ドルの寄付をした、ＵＡＡＡコーナー、各国のコーナー設置は大歓迎、日本など各国の博物館ともWebリンクしたい。

4-5.来年以降の役員人事

現在の会長の続投を支持する。死ぬまで続けよ（神﨑会長）、との声も。副会長国、理事国については後日。ＵＡＡＡのWebに掲載するとのこと。

4-6.メンバーシップ

具体的にはモンゴルの件であった。モンゴルにＭＣＭＡＣ(Mongolian Central Mountain Altai Club)とＭＮＭＦ(Mongolian National Mountain Federation)があり、共に会員が極端に少なく、同族で構成されている。前者はＵＡＡＡに後者はＵＩＡＡに加盟しているがどちらも会費の支払いはよくない。そこへ持ってきて前者に所属していたZaya女史がその会を脱会し、CPA(Club Alpine Mongol)を結成、ＵＡＡＡに加盟したいと言ってきた。結論的には以前からの申合わせ通り既得権のある団体が新規を認めればよい、ＭＣＭＡＣがＣＰＡを認めればよい（神﨑会長）、ということになり、最初にChristineがZayaにそのこと等を確認することになった。ネパールはその国で認められているかどうかがキーだと言ったが、それでは労山がＮＧになってしまう。ＪＭＡは労山を認めている。因みにＵＩＡＡは１国１投票権であるが、ＵＡＡＡは１団体１投票権となっている。

4-7.合同レスキュー研修

イランからの提案である。ＵＡＡＡ全体で合同レスキュー研修を行ったらどうか、ということであった。これは日中韓の研修に参加したいと言ってきた時に日本が断った経緯がある。結論としては近隣の３国、例えば日中韓、及びイラン、パキスタン、キルギスタンなどで研修を行い、何年かに１回合同で行いましょう、ということになった。ＫＡＣはその国のレスキュー技術、体制を見極めてから合同で行ったらどうか、と言う意見、もっともである。

4-8.高所ではなく、中程度の山での合同登山

労山の提案。高い山だけでなく、国内なら1000m程度、海外でも3000m程度の山で安全を第一に考えた国際イベントを行ったらどうか、韓国人の日本の山での遭難例もあり、文化も含めて考えたらどうか、ということでほぼ全員が賛成した。

4-9.合同遠征

担当はネパールである。以前から提案がされていたが、今回は山が決まった。ネパールとチベットの国境付近にあるMustangの6476mという未踏峰である。ＮＭＡがネパール政府から許可をもらったもので、ＵＡＡＡピークとして登録されることになる。山の概念図はもらっており、2014年４月に実施の予定である。日本からも参加してほしいとのこと。

4-10.SKIのDivisionを作りたい。

今まで日本、韓国などで行っていたものをＵＡＡＡ全体に広げたいとのこと。ＫＡＦからの提案である。神﨑会長は各国の環境に差があり、難しいとの意見であった。

台湾にも質問したが返答なし。これは進める方針。

4-11.Youth Campを行いたい

これはＫＡＦの提案であり、webにproposalを掲載するとのこと。

4-12.2014年広島での総会

会計発表の時に約30,000ドルの残金があるとのことで、今度の広島を含めて20周年記念事業で10,000ドルほど使用したいと言う神﨑会長の申し出があった。日本円で約100万円である。20周年記念事業のイベントは広島でのセレモニーと合同登山のみである。それ以外にもイベントのアイデアを出して、この金額で盛り上げたいとのことであった。ただ、イベント計画が先か、金が先か、ということになり、結果的にはまだ決定されていない。ＵＡＡＡ会長はあまりいい顔はしなかった。今後集まる機会は６月までないので、メール等で意見交換する必要がある。

インカ・トレイル・トレッキングと
マチュピチュ、クスコ、ナスカの地上絵 12日間

発着地 東京　旅行代金 ¥598,000

出発日 3/5(水)・3/19(水)・4/9(水)・4/30(水)・5/14(水)・6/4(水)

※燃油サーチャージ（2013年11月25日現在：目安約49,000円）が別途必要です。

インカ・トレイルは入山許可取得が必要となりますので、
早めのお申し込みをお願いしております。

旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033　名古屋 ☎052-581-3211　福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

5. トピック

銃協会での歓迎夕食会があり、Nazirも招かれて出席した。彼は開会セレモニーにも出席した。同日、韓国は大使館主催の夕食会で席を外したが、その時映画を放映した。シェルパが登山隊を率いて頂上に連れて行く内容であったが、シェルパ中心に描かれており、登山隊（恐らくコマーシャル登山）もスイスだったのが印象的だった。

6. 閉会式

開会式の時とは別の大臣が出席して、やはりコーランから始まった。登壇メンバーもほぼ同じ。やはりincidentについて安全を守る覚悟の強調、ＡＣＰ、ＵＡＡＡ、ＵＩＡＡの各々の会長が各々の立場で無事に会議が終わったことへの感謝を述べた。次回の理事会は香港で6月下旬に行われる予定である。

（記　小野寺斉）

平成25年度全国参与会報告

第52回全日本登山体育大会・茨城大会に合わせて11月８日に水戸市の水戸京成ホテルで全国参与会が開催された。日山協からは坂口・田中・本木各顧問、神﨑会長、八木原・佐藤副会長ら９名の顧問・役員が出席し、参与は全国から21名が参加された。

神﨑会長挨拶の後、今年逝去された参与物故者に黙祷を捧げた。其の後、出席者に自己紹介を含め現況報告をして頂いた。日常の活動状況や健康に関することなどが報告されたが、皆さん元気に活動されておられるのには驚かされる。

先ず、本年度の永年参与感謝状贈呈者は、13名おられたが、出席されたのは後藤利雄参与（大分県）だけだったので、全日大会の開会式で感謝状を贈呈し、参与会では贈呈者のお名前を紹介させて頂いた。尚、当日の資料で角掛喜美夫参与（岩手）のお名前が抜けておりましたので、お詫びして訂正させて頂きます。

次いで、尾形専務理事より、公益社団法人へ移行した新生日山協の概況、４つのワーキング・グループによる喫緊の課題検討、組織・役員体制、財政状況、事業概況などの現況を報告した。

参与からの質疑応答では、80歳以上の参与は永年参与として会費を免除にしてはどうか、との提案や岩手県山岳協会参与会創立30周年記念式典・祝賀会への配慮の無い対応に苦言を頂いた。　（記　尾形好雄）

※新春「顧問・参与会」を1月18日(土) 10時30分～12時に新春懇談会と同じアルカディア市ヶ谷で開催致します。

全国の高校生クライマーよ集まれ！
～第４回全国高等学校選抜クライミング選手権大会～

12/22（予選）　12/23（準決勝・決勝）

会　　場	埼玉県加須市民体育館（埼玉県加須市下三俣590）
期　　日	平成25年12月22日（日）～23日（祝） 開会式：22日9時から　　閉会式：23日15時30分から
主　　催	（公社）日本山岳協会・（公財）全日本高等学校体育連盟・加須市・加須市教育委員会
後　　援	（公財）日本体育協会・埼玉県教育委員会・埼玉県高等学校体育連盟・ （公財）埼玉県体育協会・加須市体育協会
主　　管	埼玉県山岳連盟・（公財）全国高等学校体育連盟登山専門部
競技種目	男子リード、女子リード
競技方法	リード方式で、予選はフラッシュ２本、準決勝・決勝はオンサイト１本で行う。
事 務 局	（公社）日本山岳協会 〒150-8050　東京都渋谷区神南１－１－１　岸記念体育会館 TEL 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395 Mail:info@jma-sangaku.or.jp http://www.jma-sangaku.or.jp

平成25年度11月（25年11月）常務理事会報告

日　時　平成25年10月31日㈭
17：45～21：00
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、水島、瀧本、青木各常務理事、中畠監事
欠　席　國松副会長
（13名12名出席）

1.専門委員会動静
10月常務理事会以降
（10月10日～10月30日）
［報　告］
⑴競技部合同委員会
10月17日㈭　出席者19名
ア　平成25年度上期事業の決算と平成26年度事業計画と予算について
・平成26年度事業計画及び予算は11/9までに担当者が提出
イ　都道府県大会からの選手登録について
・上位大会の選考対象選手とそれ以外のカテゴリーに分け、選考対象者のみ登録を必要とする
・選手登録カードの発行
ウ　第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
・協賛社の獲得状況（苦戦）
・第5回（平成26年度）大会の加須開催について
エ　日本選手権（1/4～5、東久留米スポーツセンター）について
・「マムートカップ」冠大会と収支予算ついて
オ　ボルダリング・ジャパンカップ（2/22～23、静岡・クライミングJAM）
・「キョーリン・ボルダリング・ジャパンカップ」冠大会と収支予算について
カ　日本ユース選手権大会（3/22～23、印西市）について
・「ミレーカップ」冠大会と収支予算について
・ユースの表彰状授与について
キ　ＩＦＳＣクライミングＷＣ2014印西大会（10/25～26）について
・大会主催者ガイドブック2014に基づく大会開催について
ク　トレイルランニング委員会の新設について
ケ　10月常務理事会報告
コ　山岳スキー小委員会報告
・第9回山岳スキー日本選手権大会の開催概要と福島県猪苗代でのデモ大会開催について
サ　アイスクライミング小委員会報告
・ソチ冬季五輪のデモンストレーションに日本から男女2選手を派遣
シ　長崎国体での監督資格について
ス　東京国体の実施報告
セ　国体後催県の準備状況について
・長崎県（平成26年）：抽選会9/7，13時（申請中）。実施要項提出（10/15）
・和歌山県（平成27年）：ボルダリング会場が南部小に決定。
・岩手県（平成28年）：正規視察終了（9/6）
・愛媛県（平成29年）：仮設施設について再度交渉中
・福井県（平成30年）：正規視察（11/30、池田町）
・茨城県（平成31年）：正規視察（11/18、鉾田市）
・栃木県（平成34年）：正規視察リハーサル（11/1）
ソ　その他
・Ｃ級審判研修会実施要望（鹿児島岳連）（3/1～2、熊本県）
・ルートセッターの認定
⑵自然保護委員会
10月15日㈫　出席者13名
ア　8月常任委員会議事録の確認
イ　山岳自然保護の集い報告と反省
・全国会議の在り方を再検討
・自然保護委員のネットワーク化
・常任委員会からの加盟団体向け情報発信の促進
ウ　自然保護指導員の手引き改訂について
エ　関東ブロック自然保護交流会兼山岳自然保護の集い反省会の開催について
・11/23、神奈川県愛甲郡清川村
オ　自然保護指導員研修会について
・1/18、国立オリンピック記念青少年総合センター
カ　その他、情報交換、連絡事項
⑶ジュニア普及委員会
10月18日㈮　出席者4名
ア　「ジュニア登山教室 in 立山」報告書について
イ　平成25年度中高年安全登山指導者講習会報告
・東部地区（愛知）：9/27～29、一般参加者37名
・西部地区（熊本）：10/11～13、一般参加者48名
ウ　第52回全日本登山体育大会（茨城）の準備状況について

寄贈図書

寄贈本	福井県山岳連盟	「白山単独越冬 伊藤仁夫の挑戦」佐々木正祐著
	山と溪谷社	「バックカントリースキー＆スノーボード」伊藤フミヒロ編著
雑誌	東京新聞	「岳人」No.798 2013 12月号
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.944 2013 12月
会報	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第309号
	NPO法人日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.37 2013 Octber
	岡山県山岳連盟	「岡山岳連」第210号
	中華民国山岳協會	「中華山岳」237
	横浜山岳会	「山」977号 2013年11月
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第557号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ アルク」2013･2014 12･1
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレイニュース」2013年10月28日号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.427 2013.11
	全日本ボウリング協会	「ＪＢＣニュース」504号
	中国登山協会	「山野」182 2013.10
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.262
	(公財)日本オリンピック委員会	「Olympian」2013
	中国登山協会	「山野」183 2013.11
	(公財)日本体育協会	「SPORTS JAPAN」2013.11-12 vol10
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2013.11.10.No.289
	高校生新聞社	「高校生新聞」11/10-12/9 第211号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.466 2013.12
	Corean Alpine Club	「山」Vol.233 2013.11～12
	ＦＥＥＣ	「Vertex」2013 250
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第100号
	(公財)尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬」vol 23
	(公社)日本山岳会	「山」No.822 2013年11月号
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレイニュース」2013年11月18日号
	東京野歩路会	「山嶺」No.1005
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.648 '13.12
	Korean Alpine Federation	「大山聯」2013 November Vol.179
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第405号 2013年11月号
	(社)日本スポーツプレス協会	「ＥＸＴＲＥＭＥＰＲＥＳＳ」VOL10
	(公社)日本山岳会自然保護委員会	「木の目草の芽」第107号
	横浜山岳会	「山」978号

エ　全日本登山体育大会の在り方について
・事業ＷＧに於ける既存事業の見直しとの関連
・第53回大会（徳島・剣山）の運営方針について
・第54回大会（宮城・栗駒山）の運営方針 について
オ　ジュニア育成事業について
・募集促進について
(4)遭難対策委員会
　10月30日(水)　出席者11名
ア　日中韓技術交流研修会報告
イ　積雪期レスキュー講習会について
・ＪＮＡとの共催を組み込んだ要項で作成・配布
ウ　新型探査機について
・10/13、赤城山でのヘリを使った救助訓練時に行ったテスト結果について
エ　平成26年日中韓技術交流研修会について
・9/4～10、群馬・谷川岳周辺で検討
・実行委員会の組織案を12月常務理事会に提案
オ　ＵＩＡＡ登山委員会について
・平成27年度春の日本開催の検討
カ　指導委員会のハイキングリーダー（仮称）制度について

２.その他の重要事項
（10月10日～10月30日）
［報　告］
(1)平成25年度中高年安全登山指導者講習会（西部地区）　10月11日(金)～13日(日)　於：熊本県・休暇村南阿蘇　神﨑会長、仙石常務理事
(2)登攀技術研修会　10月12日(土)～13日(日)　於：岩手県営運動公園　永井副委員長
(3)第14回ジャパンドラックストアショー打合せ　10月16日(水)　於：JMA事務局　尾形専務理事
(4)ＳＣ指導員養成講習会　10月19日(土)～20日(日)　於：神奈川県山岳スポーツセンター　永井副委員長
(5)中間監査　10月22日(火)　於：岸記念体育会館　内藤・中畠監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事
(6)JACとの協議　10月22日(火)　於：JACルーム　神﨑会長、内藤監事、尾形専務理事
(7)ＳＣ指導者養成講習会　10月26日(土)～27日(日)　於：埼玉・加須市民体育館　瀧本常務理事
(8)雪崩防災週間実行委員会及び雪崩防災シンポジウム実行委員会　10月29日(火)　於：国土交通省水管理・国土保全局会議室　尾形専務理事
(9)駐ネパール新旧大使歓送迎会兼公益社団移行祝賀会　10月29日(火)　於：KKRホテル東京　神﨑会長、八木原副会長

３.議　事
(1)平成25年度10月常務理事会議事録の承認について（承認）
(2)平成25年度第3回理事会議案及び報告事項について（提案通り承認）
(3)パラクライミング委員会の設置について（実態調査して次回常務理事会で再審議）
(4)「第63回日本スポーツ賞」表彰候補者の推薦について（小田桃花選手の推薦を承認）
(5)報告事項
ア　第14回ジャパンドラックストアショーの出展について
イ　「2013毎日スポーツ人賞」候補者推薦について
　（「文化賞」候補者として三浦雄一郎を推薦）
ウ　平成25年度日本山岳グランプリ候補者の推薦について
エ　平成26年度特別事業実行委員会について
オ　第９回日本スポーツグランプリ候補者の推薦について
カ　平成25年度山岳レスキュー講習会（積雪期・東部地区）開催要項について
キ　2014クライミング日本選手権「マムートカップ」開催要項について
ク　中間監査報告
ケ　ハイキングリーダー制度の経過報告
コ　平成26年度山岳共済会栞について
サ　『登山月報』広報専任委員の選出について
シ　「山の日」制定協議会の報告
ス　平成26年度からの選手登録について

４.役員等の派遣について
(1)平成25年度山岳遭難対策中央協議会幹事会（第２回）　11月５日(火)　於：文部科学省13Ｆ会議室　西内常務理事、中川事務局員
(2)富士山利用者負担専門委員会　11月７日(木)　於：都道府県会館　尾形専務理事
(3)全国「山の日」制定協議会発起人会　11月11日(月)　於：弘済会館（麹町）　神﨑会長、尾形専務理事
(4)ＩＦＳＣイベントオーガナイザー会議　11月16日(土)～17日(日)　於：スロベニア小日向副委員長
(5)平成25年度福島高体連登山部顧問研修会　11月29日(金)　於:福島・いわき市「新舞妓ハイツ」　尾形専務理事
(6)日本勤労者山岳連盟望年会　12月７日(土)　於：労山事務所　八木原副会長
(7)第70回和歌山国体（平成27年）正規視察（再度）　12月14日(土)　於：和歌山県みなべ町　西原常任委員

５.後援、協賛等の依頼について
ア　第28回かながわ県民登山（ハイク）の後援名義（神奈川県岳連主催）（承認）

６.報　告
(1)自然保護指導員の承認（なし）
(2)指導員の認定承認
　①ＳＣ指導員（なし）
　②ＳＣ上級指導員（なし）
　③アルパイン指導員（なし）
　④アルパイン上級指導員（なし）
　⑤ＳＣ主任検定員（なし）
(3)平成25年度ルートセッター研修会合否
　渡部桂太、岡崎友昭、鈴木智久、樋口純裕、本田達、清水広明、本郷真一、藤原佑樹、倉島将吾、伊藤裕貴、松岡準弥、沼尻拓磨、西村望、以上13名が合格

お知らせ
事務局の年末年始業務は、以下の通りです。
◇仕事納め　12月26日（木）
◇仕事始め　1月　6日（月）

編集後記

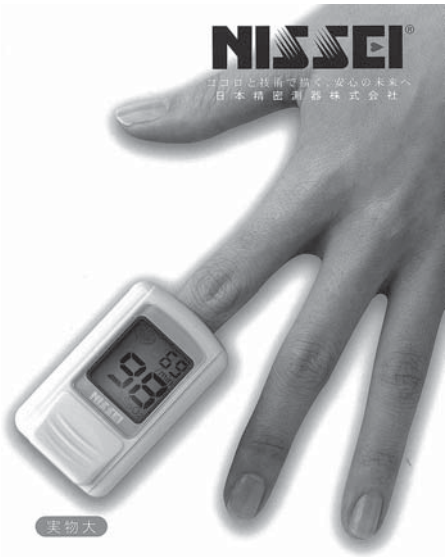
特殊切手「日本の山岳シリーズ第3集」が11月19日に発売されました。岩木山（青森県）、剱岳（富山県）、蛭ヶ岳（神奈川県）、御在所岳（三重県）、大山（鳥取県）、妙高山（新潟県）、青葉山（福井県）、甲斐駒ケ岳（山梨県）、大台ケ原（奈良県）、天山（佐賀県）がデザインされています。人気シリーズなので興味のある方はお早めに。
（広報担当　水島彰治）

登山月報　第537号
定　価　100円（送料別）
予約年間　1,200円（送料共）
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月1回15日発行）
発行日　平成25年12月15日
発行者　東京都渋谷区神南1−1−1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03 − 3481 − 2396
ＦＡＸ　03 − 3481 − 2395

第4回 全国高等学校選抜クライミング選手権大会おめでとうございます。

弊社ではパルスオキシメータ（経皮的動脈血酸素飽和度計）“パルスフィット BO-600”を**格安**の値段で提供させて頂いております。ご希望の方は、下記までお申込み下さい。

1.8 万円 !!
ポッキリ



田中産業株式会社
〒113-0033　東京都文京区本郷 3-16-3　電話：03-3814-7181

詳しくは ➡ http://www.sangakukyousai.com

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ＵＲＬ：http://sangakukyousai.com